

幻のロシア帽子復刻

「パナムカ」木綿地で夏涼しく

子どもの愛らしさ引き出す

日本で唯一、ロシアの児童文学・文化を研究しているグループ「カスチョール会」(事務局・京都市)が、旧ソ連時代のロシアの子どもたちがかぶっていた夏用帽子「パナムカ」を復刻した。木綿地で、子どもらしさを引き出すデザインに加え、洗濯できる合理性も兼ね備えていたが、ペレストロイカの後、消えてしまったという。手元にあった帽子をもとに復刻した同会は「帽子を通して、ロシアの生活の知恵や母親の愛情を感じてほしい」と話している。

(文化報道部 行司千絵)

パナムカは厚手の木綿地の白いピケ製。三方に分かれた一枚の布を頭に覆う形で、布を重ねてできたさまは風通しの役割も果たす。細いつばがアクセント。ロシア革命(一九一七年)のあとに作られたという。

同会代表で、大阪外国語

大名誉教授の田中泰子さん

から六五年までモスクワに留学。夏になると、女の子も男の子も一斉にパナムカをかぶり「公園や街路に白いちょうちよが飛び回るようにかわいかった」。安価で、アイスキャンデーくらいの値段だったという。

日本に戻り、息子(当時



京のグループ 丸洗いOK、生活の知恵知って

二歳)が帰国の際にかぶっていたパナムカが、日本の高温多湿の気候に合うということに気付いた。泰子さんの母親が起した型紙をもとに、二人の子どもにパナムカを作り、かぶらせた。

その後も定期的にロシアを訪れてきた田中さんは、最近パナムカを見かけないことに気付いた。ロシアの友人に聞いても理由は不明。田中さんは「ソ連崩壊後、生活スタイルの欧米化に伴って消えた」とみている。

同会は、子どもの愛らしさを引き出し、丸洗いでき、折りたためるパナムカの復刻を計画。田中さんの手元にあった帽子から型紙を起し、白のピケのほか、現代に合わせてデザインしたリネンと柔らかな綿、水玉とピケ(いずれもリバーシブル対応)の三種類、計二百枚を作った。

田中さんは「ロシアの文化を伝える試みとしてパナムカを作った。大勢の子どもたちにかぶってほしい」と話す。Sサイズ(50-52センチ)とMサイズ(52-54センチ)があり、二千一千五百円。型紙(三百円)もある。問い合わせは同会 ☎075(2133)618802。

復刻された帽子「パナムカ」。性別に関係なく、かぶれるのも特徴だ